

小学校

基礎基本を含む活用力を育成する教材集

国語 四

令和2年3月改訂

はじめに

福岡県教育委員会では、児童生徒に国語、算数・数学における基礎基本を含む活用力（基礎的・基本的な知識・技能及び思考力、判断力、表現力等）を育むとともに、地域間の学力向上の取組の差を解消することを目的として、平成25年度から小学校5年生～中学校3年生向けの国語、算数・数学の教材集を作成・配布しました。各学校では、教材集を授業等で繰り返し活用し、取組の改善が図られてきました。

また、平成28年度からは、学力向上に係る検証改善サイクルを小学校中学年から一層計画的に推進するために、小学校4年生向けの教材集を新たに作成しました。これは、福岡県学校教育振興プラン（平成27年12月）において、「小学校中学年までの児童に対し、読解力と基礎的な計算能力の育成を中心とした取組等の強化を図る」とされていることに対応しています。

この度、小学校においては令和2年度から学習指導要領（平成29年告示）が全面実施となることを受けて、改訂を行いました。

本教材集は、大問（主に基礎的・基本的な知識・技能を活用する力を育成する教材）と小問（基礎基本の定着を図る教材）で構成しています。

大問については、指導計画に位置付けた次のような活用が考えられます。

- 授業の主教材として活用する。
- 適用問題や発展問題として活用する。
- 習熟度別指導等の問題として活用する。

小問については、朝の活動や家庭学習等での次のような活用が考えられます。

- 朝の10分程度の時間で小テストやプレテストとして繰り返し活用する。
- 授業（教科書の内容）と関連付け、家庭学習課題として活用する。
- 習熟度別指導等の問題として活用する。

各学校では、授業の中だけでなく、朝の学習の時間や家庭学習等における補充・発展問題として活用していただいているところですが、更に、各問題の特質に応じて、先生方の授業づくりや校内研修の際の参考資料としても活用され、基礎基本を含む活用力の向上に役立てていただくことをお願いします。

令和2年3月

福岡県教育委員会

基礎基本を含む活用力を育成する教材集

目次

1 一単位時間程度で活用する教材(大問)

1	自分の役わりを考えて話し合おう。 (話すこと・聞くこと)……………	1
2	調べたことをまとめて、ほつこくする文章を書こう。 (書くこと)……………	3
3	登場人物の人からを想像しながら読もう。 (読むこと)……………	5
4	疑問に思ったことこの答えを見つけるために、いろいろな文章を読もう。 (読むこと)……………	7

大問1～4の出題の趣旨、正答 9～12

2 短い時間で活用する教材(小問)

4	書いた文章を読み返し、よりよい表現に書き直そう。 (書くこと)……………	16
5	詩のおもしろさをしょうかいしよう。 (読むこと)……………	17
6	場面のうつりかわりに注意しながら読もう。 (読むこと)……………	18
7	文章の内容を整理しよう。 (読むこと)……………	19
8	大切な言葉に注意して、文章の内容を表に整理しよう。 (読むこと)……………	20
9	ことわざや慣用語の意味を調べて、正しく使おう。 (我が国の言語文化に関する事項)……………	21
10	主語とじゅつ語の関係に気をつけて、正しい文をつくらう。 (言葉の特徴や使いに関する事項)……………	22
11	つなぎ言葉を使って、長い文を短い文に分けよう。 (言葉の特徴や使いに関する事項)……………	23
12	国語辞典の使い方をたしかめよう。 (情報の扱い方に関する事項)……………	24

小問1～12の正答 25～29

3	書いた物語を読み合って、よりよい表現を考えよう。 (話すこと・聞くこと)……………	15
2	資料を使って、聞き手に分かりやすく発表しよう。 (話すこと・聞くこと)……………	14
1	メモの取り方を工夫して、大事なことを落とさずに聞こう。 (話すこと・聞くこと)……………	13

第四学年【めあて】自分の役わりを考えて話し合おう。

() 組 () 番 名前 ()

① 中川さんの学校では、代表委員会で、「世界のこまっっている人々のために、わたしたちができること」という取り組みを行うことを決めました。中川さんたち四年三組では、この取り組みの内容について学級会で話し合いました。次は、中川さんが司会をつとめた【話し合いの様子の一部】と【黒板にまとめた発言の一部】です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。「、」「。」「は」は字数に数えます。

【話し合いの様子の一部】

司会	世界のこまっっている人々のためにできることとして、物を集めて送るといふ意見が出ました。この意見について、川上さんにもう少しくわしく話してもらいましょう。
川上	ぼくは、毎日の生活で使う物を送るのがよいと思います。だから、古着を集めるのはどうでしょうか。
石田	古着だけでなく文ぼう具も集めて送ったら、よいと思います。えん筆や消しゴム、ノートなどは、毎日の勉強で使う物だからです。
司会	他に意見はありませんか。
坂本	わたしは、使用済み切手を集めるのもよいと思います。使用済み切手とは何ですか。
坂本	使用済み切手とは、消印がおされた切手です。使用済み切手を集めている人たちにその切手を売ったお金が、こまっっている人々の病気やけがを治すのに役立てられます。
司会	そういう理由で使用済み切手を集めるのですね。① ところで、川上さんと石田さんと坂本さんに聞きたいことがあります。古着や文ぼう具、使用済み切手をどうやって集めるつもりですか。

(右下に続く)

石田	古着や文ぼう具は、月に一回、四年三組の人たちが持つてくることにしたらどうでしょうか。
坂本	使用済み切手を集めるための箱を作るのがよいと思います。その箱を四年三組だけでなく、校しゃ内のいろいろなところに置きます。そうすれば、休み時間に、全校児童が使用済み切手を箱に入られます。
司会	② 古着や文ぼう具の集め方と使用済み切手の集め方には、ちがいがありませんね。

(話し合いが続く)

【黒板にまとめた発言の一部】	わたしたちができること
● 物を集めて送る。	
● 集める物	
● 古着	
(理由) 毎日の生活で使う物だから。	
● 文ぼう具	
(理由) 毎日の勉強で使う物だから。	
● 使用済み切手	
(理由)	A

(まとめが続く)

問1 書記が、坂本さんの発言を黒板に書きしました。【黒板にまとめた発言の一部】の【A】の中に入る言葉を、「くから」という形で書きましょう。

--	--

問2 司会の中川さんは、出された発言に合わせて話し合いを進めています。あとの問いに答えましょう。

(1) ——— 線①は、どのようなねらいで発言していますか。もっともふさわしいものを、アからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。

- ア いくつかの意見を一つにまとめようとしている。
- イ 発言の理由をさらにくわしく聞こうとしている。
- ウ 話題を変えて話し合いを深めようとしている。
- エ ちがう意見を出して話し合いを広げようとしている。

--

(2) ——— 線②について、集め方のちがいを次のようにまとめました。【I】・【II】の中に入る言葉を、〈やくそく〉に合わせ、

前後の言葉につながるようにして、それぞれ書きましょう。

古着や文ぼう具は、【I】という集め方です。

一方、使用済み切手は、【II】という集め方です。

〈やくそく〉

○ 【I】・【II】それぞれに、「いつ」と「だれが」を必ず入れること。

○ 【I】・【II】それぞれ、十五字から二十五字で書くこと。

古着や文ぼう具は、

25	15	25	15

という集め方です。

一方、使用済み切手は、

25	15	25	15

という集め方です。

第四学年【めあて】調べたことをまとめて、ほうごくする文章を書こう。

() (組) () (番 名前) ()

2 今野さんは、「おにごっこ遊び方」について調べてほうごくするために、次の【下書きの一部】を書きました。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。「**」**、「**」**は字数に数えます。

【下書きの一部】

ふつうのおにごっこのルール

はじめにジャンケンでおにを決めます。おになった人は十まで数えたあと、他の人を追いかけます。おにがだれかにタッチすると、おにが入れかわります。そして、新しいおにが他の人を追いかけます。これをくり返して遊びます。

おにごっこの種類

日本全国には、ふつうのおにごっこのルールをもとに、遊び方を工夫したおにごっこがたくさんあります。そのようなおにごっこのルールをいくつか見てみましょう。

① 色おにのルール

おにが決めた色の物にさわっている人は、おににタッチされません。それ以外のルールはふつうのおにごっこと同じです。

② 氷おにのルール

おにが他の人にタッチしても、おには入れかわりません。そのかわり、おににタッチされた人は、その場で動けなくなります。

おにごっこをする場所

おにごっこをするときは、校庭や公園などの広くて安全な場所を使います。学校のろう下は、めいわくになるので、おにごっこをしてはいけません。

問1 今野さんは、ずかんを調べて高おにというおにごっこを見つ

けました。そこで、高おにの説明を **おにごっこの種類** に書き加えました。【高おにの説明の一部】を読んで【書き加えた部分】の **A** に入る言葉を、① 色おにのルール の説明と同じような書き方で、書きましょう。

【高おにの説明の一部】

おには、他の人を追いかけてタッチすることでおにを交代できる。一方、他の人は、おによりも高いところをさがす。そこにいれば、おににタッチされないからだ。

【書き加えた部分】

③ 高おにのルール

A、おににタッチされません。それ以外のルールはふつうのおにごっこと同じです。

A

--	--

問2 今野さんは、**② 氷おにのルール**の説明を、次の【下村さ

んの意見】を受け、ずかんで氷おにについて調べて書き直しました。【氷おにの説明の一部】を読んで、【書き直した部分】の

B の中に入る言葉を書きましよう。

【下村さんの意見】

その場で動けなくなった人は、このあとどうなるのかな。その説明があると分かりやすいよね。

【氷おにの説明の一部】

氷おにでは、おにが他の人にタッチしても、おには交代しない。そのかわり、タッチされた人は、その場で氷になったかのように、動けなくなる。もちろん、ずっと動けないままではない。おに以外の人にタッチされると動けるようになるのだ。

【書き直した部分】

おにが他の人にタッチしても、おには入れかわりません。そのかわり、おににタッチされた人は、その場で動けなくなります。ただし、動けなくなっても、。

B	
---	--

問3 今野さんは、**おにごっこをする場所**の説明に書き加える

ため、先生に話を聞いて【メモ】を取りました。【メモ】を読んで、【書き加える部分】の**C**の中に入る言葉を、〈やくそく〉に合わせて書きましよう。

【メモ】

・おにごっこ ○
 校庭、公園など ↓ 広い、安全
 ⇔
 ・おにごっこ ×
 学校のろう下 ↓ めいわく
 車が多いところ
 川の近く
 } あぶない

【書き加える部分】

また、 C、おにごっこをする場所としてふさわしくありません。

〈やくそく〉

- 前後の言葉につながるように書くこと。
- 【メモ】の中の言葉を使って書くこと。
- 十五字から二十五字で書くこと。

25	15		

第四学年「めあて」登場人物の人がらを想像しながら読む。

() 組 () 番 名前 ()

3 前田さんのグループでは、あまんきみこが書いた『春のお客さん』を読んで、その物語、あるいは同じ作者が書いた別の本の感想を話し合って主人公の人がらを考えることにしました。【物語『春のお客さん』】と【谷川さんの感想】、【小島さんの感想】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。(「」、「」は字数に数えます。)

【物語『春のお客さん』】

■物語のこれまでのあらすじ

タクシー運転手の松井さん。今日のお客さんは、ようち園に見学に行く、五人の子どもをつれたお母さんです。お母さんと子どもたちは松井さんを待たせて、近くのようち園の子どもが歌っている様子を、さくの外から見ています。

さくによりかかるようにして、向こうを見ている五人の頭が、リズムにのってゆれています。お母さんの頭も、リズムに合わせてゆれています。

(うふっ。よっほど、うれしいんだろなあ。……ありやあ。)

松井さんの目が、大きくなりました。

はしつこの男の子のズボンから、ふわっとこげ茶のものが。

(な、なんだい?)

松井さんは、あわてて目をこすりました。

ところが、見えない。もう何も見えません。

「ああ、びっくりした。たぬきのしっぽかと思つたよ。まさかね。」

そのときです。今度は、五人のズボンから、こげ茶のものが、いっせいにふわふわと出てきました。

(ひゃあ。)

松井さんは、口をあんぐり開けました。

五本のこげ茶のものが、歌のリズムにのって、右、左、右、左、左、

と、全部同じ方向にゆれ出しました。

(……な、なんと、あの子たちは。)

松井さんの大きくなった目は、糸のように細くなりました。ふき出しそうなのをやっとこらえて、自分の口を、しっかりおさえました。そのとき、お母さんも、気がついたのでしょうか。いちばん近くの子のおしりを、こら、というようにたたきました。とたんに、そのしっぽが、すつと引っこみました。

こら、こら、こら、こら。たたくじゆんに、しっぽがすつ、すつ、すつ、すつ、と引っこみました。

(ああ、よかった。)

松井さんが、後ろで、ほっとしたとき、お母さんは、あわててふり向きしました。

けれど、松井さんが、ほんの一秒、早かった。急いで目をつぶりしました。

うまく、たぬきねいりをしたんです。

ようち園の庭のほうは、子どもたちが、手をたたきながら、たてものの中に入っていきだしました。

あたりはしだいにしずかになり、やがて、

「さあ、帰りましょうね。」

という、お母さんの声が目をとじている松井さんまで聞こえてきました。

【谷川さんの感想】

松井さんは、やさしい人だと思います。「ああ、よかった。」とほっとしたところや、たぬきねいりをしたところに、やさしい人からが表れているからです。

【小島さんの感想】

松井さんは、やさしい人だと思います。この『春のお客さん』でも、同じ作者が書いた、松井さんが主人公の『白いぼうし』でも、お客さんにとっても親切にしているからです。

問1 前田さんは、二人の感想をくらべて、同じところとちがうところがあふことに気づきました。

(1) 松井さんの人からについて、二人の感想の同じところを書きましよう。

松井さんのことを

だと思っているところ

(2) 二人の感想のまとめ方にはちがいがあります。二人は、どのように感想をまとめていますか。その説明として、つてもふさわしいものを、次のアからエまでのの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

- ア 作者の考えをくらべながらまとめている。
- イ 自分の感想と作者の感想をくらべながらまとめている。
- ウ 同じ作者の二つの物語の主人公の行動に着目してまとめている。
- エ 感想の理由となる、物語の中の言葉をしめしながらまとめている。

谷川さん

小島さん

問2 前田さんは、【谷川さんの感想】の——線で、たぬきねいり

をしたことが、なぜやさしい人からを表しているかを考えるために、『春のお客さん』をもう一度読んで、考えをノートにまとめた。

たぬきねいりをしたところがやさしい人からを表している理由を、次の〈やくそく〉に合わせて書きましよう。

〈やくそく〉

○ 「たぬきのお母さん」「安心」の両方の言葉を使って書くこと。

○ 四十五字から七十字で書くこと。

第四学年【めあて】「ぎ問」に思ったことの答えを見つけてるために、いろいろな文章を読もう。

() (組) () (番) (名前) ()

4 春のある日、村上さんは、新聞やテレビで「ウグイスの初鳴き」があったことを知りました。「ウグイスの初鳴き」とは、春になって初めてウグイスが鳴きだした日のことだと聞いた村上さんは、あるぎ問をもちました。村上さんは、その答えを見つけてるために、次の【読み物】を読み、分かったことや新たなぎ問を【ふせん】に書きました。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。「()」「()」は字数に数えます。

【ぎ問】

ウグイスは、なぜ A 。



読み物中の線の説明

線…分かったこと

線…新たなぎ問に関連する部分

【読み物】

みなさん、春になると、ウグイスなど、鳥がよく鳴くようになりますね。それは、なぜだと思えますか。

鳥がしきりに鳴くことを「さえずり」といい、とくにつがい（オスとメスの一組）が相手をさがすときや、なわばりを主ちようするときの特別な鳴き声を指します。

たとえば、ふだん「チャツチャツ」と鳴くウグイスですが、春になると、つがい相手をさがして「ホーホケキョ」とさえずりま

す。木のえだ先など高いところから、鳴き声をひびかせているのは、遠くまで鳴き声がとどくようにするためです。ウグイスといえば、「うぐいす色」という緑色のような色がありますが、ほんとうのウグイスは、茶色っぽいからだです。さえずるときはえだ先にとまることもあります。ふだんはやぶの中で、すばしこく動き回っています。

ウグイス以外にも、春にさえずる鳥はいます。

春の早い時期、河原や畑などにいくと、「ピークパーク」と大きな鳴き声が聞こえてきます。でも、鳴いている声の主はなかなか見つかりません。そんなときは、空を見てください。ヒバリが高くまい上がって、さえずっているかもしれません。また、モズのオスは、ヒバリなど、いろいろな鳥の声をまねしてメスによびかけます。

鳥たちは、春が来たことをみんなに教えてくれているようです。

参考 『鳥の自由研究』 町のまわりで観察 春夏 寒竹孝子

【ふせん①】

ふだん「チャツチャツ」と鳴くウグイスは、春になるとつがい相手をさがして「ホーホケキョ」とさえずる。さえずるときは、えだ先にとまることもある。

【ふせん②】

ウグイス以外にも、春にさえずる鳥はいる。ヒバリは、空高くまい上がってさえずる。モズのオスは、ほかの鳥の声をまねしてメスによびかける。新たなぎ問 「なぜ、鳥は春が来たのが分かるのか」

【まとめ】

わたしが、ぎ問に思った「ウグイスは、なぜ [A] ということについて、次のことが分かった。

春のウグイスの「ホーホケキョ」という鳴き声は、「さえずり」という、特別な鳴き声である。ふだんはやぶの中を動き回って「チャツチャツ」と鳴いているが、春になると [B]。また、なわばりを主ちようするところにもさえずる。鳴き声が遠くまでとどくように、木のえだ先などの高いところでさえずる。

つまり、「さえずり」は、つがい相手をさがしたり、なわばりを主ちようしたりするために、ふだんとちがう場所で、ふだんとちがう鳴き方で鳴くことだと分かった。

このようなさえずりをする鳥は、ほかにもいる。ヒバリは空高くまい上がりながら「ピーチクパーチク」と鳴く。モズのオスは、ヒバリなどのほかの鳥の鳴きまねをして、メスによくかける。

調べていくうちに新たなぎ問も出てきた。なぜ、鳥は春が来たことが分かるのかということだ。そのために、鳥の図かんなどを調べてみたい。

問1 【ぎ問】の [A] の中には、どのような内容ないようが入ると

考えられますか。ふさわしい内容を、【読み物】の内容をもとにして、十五字から二十字で書きましょう。

15	。
20	

問2 村上さんの【ぎ問】の答えはどんなことでしょうか。【まとめ】の [B] に入る内容を、【ふせん①】を参考さんこうにして、

二十字から二十一字で書きましょう。

20	
25	

問3 【ふせん②】に書かれた新たなぎ問を調べるために、村上さんは『鳥の図かん』を読むことにしました。村上さんは、どのページから読み進めたらよいですか。『鳥の図かん』の目次に

書かれているページの番号を一つえらんで書きましょう。

『鳥の図かん』の目次	
鳥の一年（春夏秋冬）	12
鳥のすんでいるところ	36
鳥の食べ物	50
鳥の飛び方	60

□

1 出題の趣旨

学級で話し合いを行う場合、司会、書記などの役割を担う児童は、話し合いを円滑に進めるための工夫が必要である。また、話し合いに参加する児童は、他者の意見を尊重しながら自らの意見を述べることも、それぞれの意見の共通点や相違点に着目する必要がある。そこで本問では、司会、書記の役割を理解するとともに、複数の意見の相違点を簡潔にまとめる問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

(例) こまっている人々の病気やけがを治すのに役立てられるから。

○ 解説

意見とその理由をまとめる力を見る問題である。司会の「そういう理由で使用済み切手を集めるのですね。」という発言をふまえ、「そういう理由」の内容を明らかにしてまとめる。坂本の「こまっている人々の病気やけがを治すのに役立てられます。」という発言に着目するとともに、設問の指示に合わせて、「くから。」と文末をまとめる書き方に注意させたい。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと エ・オ)

問2

(1)

○ 正答

ウ

○ 解説

司会として話し合いを円滑に進行する力を見る問題である。「ところで」という話題転換の接続詞を用いていること、また、古着などの集め方に話題を切り替えていることに着目して正答を選ぶ。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと エ・オ)

(2)

○ 正答

(例) I 月に一回、四年三組の人たちが持ってくる(十九字)

II 休み時間に、全校児童が箱に入れる(十六字)

○ 解説

複数の意見の相違点を簡潔にまとめる問題である。直前の石田と坂本の発言から判断する。「やくそく」に従って、I・IIそれぞれに「いつ」と「だれが」の両方を入れることと、「く」という集め方」につながるように書くことに注意させたい。(第3学年及び第4学年 話すこと・聞くこと オ)

1 出題の趣旨

報告する文章を書く際は、自分の考えとそれを支える理由や事例との関係を明確にして書き表し方を工夫することが求められる。また、書いた文章の間違いを正したり、相手や目的を意識した表現になっているかを確かめたりして、文や文章を整えることも大切である。

そこで、本問では、調べたことをまとめたり、他者の意見を踏まえて修正したりする問題を出题した。

2 正答について

問1

○ 正答

(例) おによりも高いところにいる人は

○ 解説

調べたことを的確にまとめる力を見る問題である。【書き加えた部分】の空欄直後には、「おににタッチされません。」とある。そのため、おににタッチされない条件を【高おにの説明の一部】から取り出して記述する。「一方、他の人たちは、おによりも高いところをさがす。」の叙述に着目するとともに、設問の指示に合わせて、「人」は」という形で文末をまとめる書き方に注意させたい。(第3学年及び第4学年 書くこと ア・ウ)

問2

○ 正答

(例) おに以外の人にタッチされると動けるようになります。

○ 解説

複数の資料を関係付けて、文章を書き加える力を見る問題である。【下村さんの意見】は、その場で動けなくなった人がどうなるのかの説明を求めている。したがって、【氷おにの説明の一部】の「おに以外の人にタッチされると動けるようになるのだ。」の叙述に着目するとともに、【書き直した部分】の他の文に合わせて敬体で書くことに注意させたい。(第3学年及び第4学年 書くこと ア・エ)

問3

○ 正答

(例) 車が多いところや川の近くは、あぶないので(二十字)

○ 解説

資料から必要な情報を取り出し、条件に合わせて書く力を見る問題である。【下書きの一部】には、すでに「校庭、公園など」と「学校のろう下」について書かれている。したがって、「車の多いところ」と「川の近く」について書き加える必要がある。【モ】の情報をもとに、言葉を補いながら文章化し、【下書きの一部】の「学校のろう下は、めいわくになるので」と同じ形式で書くことに注意させたい。(第3学年及び第4学年 書くこと ア・ウ・エ)

1 出題の趣旨

物語の登場人物の人からは、その人物の行動や言葉を通じて描かれる。直接的な形容がされていなくても、描かれた場面で何を考え、どう行動したのかを読んでいくことで、人からや心情を想像していくことができる。

そこで本問では、感想の共通点・相違点、登場人物の行動からとらえた人からを条件に合わせてまとめる問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

(1) やさしい人

○ 解説

谷川さんと小島さんは、どちらも「松井さんは、やさしい人だと思いません。」という書き出しで感想を書いている。この部分が「同じところ」になる。(第3学年及び第4学年 読むこと カ)

(2) 谷川さん エ

小島さん ウ

○ 解説

二人とも松井さんの人からについて結論を述べた上で、その理由を書いている。谷川さんは「『ああ、よかった。』とほっとしたところ」「たぬきねいりをしたところ」という、物語の中の松井さんの発言や行動に注目し、小島さんは同じ作者による別の作品で、同じ

主人公が共通する行動を取っていることに注目している。(第3学年及び第4学年 読むこと カ)

問2

○ 正答

(例) たぬきであることに気づいているのに、気づかないふりをして、たぬきのお母さんを安心させようとしているから。(五十二字)

(例) 松井さんは、お客さんがたぬきであることに気づいているのに、たぬきのお母さんを安心させるために、気づかないふりをしてたぬきねいりをしたから。(六十九字)

○ 解説

たぬきのお母さんが子どものおしりをたたいてしっぽをひっこめさせたところから、お母さんが人間に化けていることを知られたくないと考えていることが分かる。特に、「あわててふり向きました」から、近くにしていると分かっている人間すなわち松井さんに知られることを心配しているということが読み取れる。これらのことから、「たぬきねいり」が、お母さんの心配を取り除き、安心させるための手段であることが理解できる。登場人物の行動から、その人物の気持ちや人からを想像することで、より深く物語の世界を味わう経験をさせたい。(第3学年及び第4学年 読むこと イ)

1 出題の趣旨

必要な情報を得るために、自分で本等を選んで読むことが求められる。資料を読み、必要な情報を取り出してまとめることで、的確な情報の取り出し方や資料の探し方を学習させたい。

そこで、本問では、複数の資料を関係付けて、疑問とその答えを記述する問題、目次に着目して読み進める問題を出題した。

2 正答について

問1

○ 正答

(例) 春になると、よく鳴くようになるのか (十七字)

○ 解説

【読み物】の最初に「春になると、ウグイスなど、鳥がよく鳴くようになりますね。それは、なぜだと思いますか。」という問いが書かれている。この問いに続く部分には、問いに対する答えが書かれている。この答えの部分に村上さんは「分かったこと」の線を引き、【ふせん①】にまとめている。ここから、問いが【ぎ問】と同じであることが分かる。文章の中で問いとその答えを見つけ出せるように指導したい。(第3学年及び第4学年 読むこと ア・カ)

問2

○ 正答

(例) つがい相手をさがして「ホーホケキョ」とさえずる(二十三字)

○ 解説

【ぎ問】の答えとなる部分は、村上さんが線を引き、【ふせん①】にまとめた部分である。この部分を **B** に合うようにして書く。見つけた答えを、条件に合わせて書くことに慣れさせたい。(第3学年及び第4学年 読むこと ウ)

問3

○ 正答

12

○ 解説

「新たなぎ問」は「なぜ、鳥は春が来たのが分かるのか」というもの。したがって、鳥と季節の関係が書かれていると思われる項目を選ぶ。季節について触れているのが「鳥の一年(春夏秋冬)」なので、ページ番号12が正答となる。「新たなぎ問」が季節に関係することであることを読み取らせた上で、『鳥の図かん』の目次を検討させたい。(第3学年及び第4学年 情報の扱い方に関する事項 イ)

第四学年「めあて」メモの取り方を工夫して、大事なことを落とさずに聞こう。

() (組) () (番 名前) ()

Ⅰ 次は、図書委員会における【先生の話】と、それを聞いた図書委員の【早川さんのメモ】です。A・B・Cは、どのようなメモの取り方をしていますか。それらについて説明しているものを、あとのAからEまでの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

【先生の話】

図書委員のみなさんは、これからわたしが話すことを自分の学級に伝えてください。

最近、図書室で借りた本を大切にしない人が多くなってきました。この一週間で二さつの本によこれを発見しました。よこれていた本のうち一さつは、図書室に先月とどいたばかりの本です。

図書室の本を借りて、家で読むときは、ジュースを飲みながら読むではいけません。もし本にジュースなどの飲み物をこぼしてしまつたら、その本はよこれてしまいます。よこれた本を次に借りる人がっかりするでしょう。

図書室の本は、学校みんなのものです。自分の本と同じように大切にしてほしいと思います。

【早川さんのメモ】

A 先生の話をクリックのみんなに伝える

借りた本を大切にしない人が多い

(右下に続く)

B よこれのあった本について先生に聞く

C ・本はみんなのもの
・借りた本を読むとき
ジュースはだめ ↓ 本がよこれる

A 話を聞いた後の感想をメモしている。
I 自分が何をすればいいのかをメモしている。
U 気になってたずねたいことをメモしている。
E かじよう書きや記号を使ってメモしている。

A

B

C

第四学年「めあて」資料しりょうを使って、聞き手に分かりやすく発表しよう。

() (組) () (番 名前) ()

2 中村さんは、「カブトムシの育て方」について発表しました。中村さんの【発表】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【発表】

みなさんは、カブトムシを育てたことがありますか。

①カブトムシの育て方には大切なことがいくつかあります。その中から、虫かごとエサについて話したいと思います。

②虫かごにはマットをしきみます。このマットとは、クヌギやコナラなどの木を細かくくだいたものです。カブトムシは、昼間はマットにもぐって休みます。

虫かごの中には、大きめの木のかけらも入れます。これは何のためだと思えますか。

③カブトムシは、転ぶとなかなか起き上がれません。このとき、木のかけらがあると、カブトムシの足場になり、起き上がることでできます。

④虫かごは、直しや日光の当たらない場所におきます。それから、マットがかわかないように、時々、きりふきで水をかけます。

⑤カブトムシのエサは、このようなこん虫ゼリーがおすすめです。こん虫ゼリーは栄養えいようたっぷりだからです。バナナやリンゴなどもエサになります。

⑥カブトムシはエサをたくさん食べます。エサが十分かどうかを毎日チェックしましょう。夏はエサがくさりやすいので注意します。

みなさんもカブトムシを育てるときは、正しい育て方をして、カブトムシを長生きさせましょう。

問1 中村さんは、発表するとき、虫かごの絵とこん虫ゼリーを見せました。【発表】の中で虫かごの絵を見せる場面とこん虫ゼリーを見せる場面を、①から⑥までの中からそれぞれ一つずつえらんで、その番号を書きましょう。

虫かごの絵を見せる場面

こん虫ゼリーを見せる場面

問2 中村さんの発表を聞いた山田さんは、——線「これは何のためだと思えますか。」について、「聞き手に問いかけたのがよかったです。」と言いました。問いかけるとよい理由を、次のアからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。

ア 話し手もつとも言いいたいことを強調できるから。

イ 話し手が自分の意見の正しさをたしかめられるから。

ウ 聞き手が関心かんしんをもって発表を聞くことができるから。

エ 聞き手が話し手の気持ちを考えることができるから。

問3 中村さんの発表を聞いた市川さんは、「虫かごの中に、こん虫ゼリーをいくつ入れておくといいですか。」と質問しつもんしました。

この質問の目的もくてきを、次のアからエまでの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。

ア むずかしい言葉について中村さんに説明せつめいしてもらうため。

イ 自分の意見と中村さんの意見のちがいをたしかめるため。

ウ 聞きのがしてしまったことをもう一回聞かため。

エ 中村さんが話したことをさらにくわしく知るため。

第四学年「めあて」書いた物語を読み合って、よりよい表現を考えよう。

() (組) () (番 名前) ()

3 北原さんは運動会の思い出をもとにして物語を書きました。北原さんと遠山さんは、物語をよりよくするために話し合っています。次の【物語の一部】と【話し合いの様子】を読んで、あとの問いに答えましょう。

【物語の一部】

ヒロキは二番だ。最後の一周で、ぼくが一番の選手を追いぬくつもりだった。

「ヒロキ、あとは、ぼくにまかせろ。」

ぼくは、ヒロキの前を走りながら、後ろに手をのばした。そのとき、バトンが落ちてしまった。

ぼくの横を、三番だった選手が走っていきました。ヒロキは、なきそうな顔で立っていた。ぼくは、もう一番にはなれないと思った。走りたくなくなったので、止まった。

【話し合いの様子】

遠山 ———線では、「ぼく」の「走りたくない」という気持ちが書かれているね。たとえを使ってこの部分を書き直したら、もつとよくなると思うよ。

北原 それなら、「A」としたらどうかな。

遠山 おもしろいとえだね。ところで、この後、「ぼく」はどうなるの。

北原 「ぼく」は、友人たちの声にはげまされながら、全力で走って二番になるんだ。「一番にはなれなかったけれど、走ってよかった。」という「ぼく」の気持ちを表すために、物語の最後は「ぼくは空を見上げた。」
B「にするつもりだよ。

問1 【物語の一部】には、終わりの言葉を書き直したほうがよい文が一つあります。その文を見つけて、はじめの五文字を書きましよう。(「、」は字数に数えます。)

問2 【話し合いの様子】のA・Bに入る言葉として

もつともふさわしいものを、あとのAからEまでの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

A 手の中のバトンを投げすててしまったかった。

イ まるで石になったように体の動きを止めてしまった。

ウ 強い風がふいて校庭のすながぼくの目に入った。

エ 風のように速く走れるような気がした。

B 今にも雨がふり出しそうなくもり空だった。

イ 大きな黒い雲が空全体をおおっていた。

ウ 雲一つない青空で太陽がほほえんでいた。

エ 太陽の光がまぶしすぎてすぐに下を向いた。

--

--

第四学年「めあて」書いた文章を読み返し、よりよい表現ひょうげんに書き直そう。

() (組) () (番) (名前) ()

4 寺山さんは、学校の花だんで育てているホウセンカについて調べて文章にまとめました。次は、寺山さんが書いた【下書き】とその【書き直し】です。これらを読んで、あとの問いに答えましょう。

【下書き】

夏になると、ホウセンカは明るい色の花をさかせます。A花の色には、赤、白、ピンクなどがある。

B花がさき終わるとたくさんの実がついて、それらの実は、指でさわっただけで、はじめてタネをとばします。

ホウセンカは、日当たりのよい場所で元気に育ちます。また、水がたりないとかれてしまいます。Cそのため、夏休みの間も、朝と夕方に水やりをしています。

【書き直し】

夏になると、ホウセンカは明るい色の花をさかせます。花の色には、赤、白、ピンクなどがあります。

花がさき終わるとたくさんの実がきます。それらの実は、指でさわっただけで、はじめてタネをとばします。

ホウセンカは、日当たりのよい場所で元気に育ちます。また、水がたりないとかれてしまいます。そのため、夏休みの間も、当番の人が朝と夕方に水やりをしています。

問1 【下書き】の——線A・B・Cの文を、寺山さんはどのような書き直しましたか。それらについて説明せつめいしているものを、あとのアからオまでの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましょう。

ア 主語がないので、主語を書き加えた。

イ じゅつ語がないので、じゅつ語を書き加えた。

ウ 長い一文をいくつかの文に分けた。

エ むずかしい言葉を他の言葉に言いかえた。

オ 文の終わりを他の文の書き方に合わせた。

A

B

C

問2 寺山さんは、次の の文を【書き直し】に書き加えて書き直しているか、次の の文をどのだん落の前に書き加えるか、次の の文をどのだん落の五文字を、【書き直し】の中からぬき出して書き直しましょう。

わたしたちの学校では、毎年五月に校庭の花だんにホウセンカのタネをまきます。

第四学年【めあて】詩のおもしろさをしようかいしよう。

5 宮下さんの学級では好きな詩をえらんで、しようかい文を書くことになりました。そこで宮下さんは、「かたつむり」という詩をえらんでしようかい文を書きました。【詩】と【しようかい文】をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【詩】

かたつむり

岩佐東一郎
いわさとういちろう

むかしながらの小家こやをせおつて
たゆまず研究をつづける科学者
えいびんなアンテナをふりたてふりたて

注 たゆまず……気をゆるめないで、なまけないで
えいびんな……感覚がするどい

【しようかい文】

この詩は、かたつむりを、小家をせおつて研究をつづける「A」にたとえているところがおもしろいので、読んでもらいたいと思いました。

はじめは「かたつむり」という題名なのに「A」と書いてあって、何だろうと思うことでしょう。けれども読んでいくと、二本の角を「B」にたとえていることが分かります。二本の「B」をふりたててゆつくり前に進んでいるかたつむりを、作者は、なまけないで研究をつづけている「A」にたとえているのです。

() (組) () (番号前) ()

問1 【しようかい文】の中のA、Bにそれぞれ入る言葉を、

Aは三文字、Bは四文字で、詩の中からぬき出して書きましょう。

A		B

問2 宮下さんは、この詩のおもしろさをどのようにしようかいしていますか。もっともふさわしいものを、アからエまでのなかから一つえらんで、その記号を書きましょう。

- ア 作者が使っているたとえに対する考えをのべている。
- イ おもしろいと思つた行を、そのまま引用している。
- ウ 受ける感じの変化へんかを、読んでいく順じゆんにたどっている。
- エ むずかしい言葉へのとまどいをのべている。

第四学年「めあて」場面のつくりかわりに注意しながら読もう。

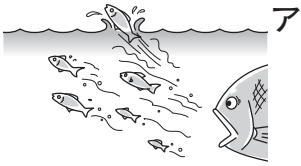
() (組) () (番 名前) ()

6 次の文は、仕事で南の島に出かけている父親が子どもにあてた【手紙】です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

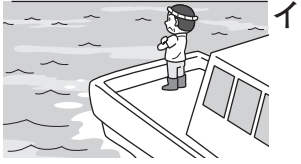
【手紙】

九月二十日 パラオ丸で。

- ① 甲板かんばんから見てるとね、船から五十メートルぐらいはなれた所で、魚がしきりにピョンピョン水の上にはねあがっている。
- ② とびうおじゃないんだよ。あんなに遠くまでとぶんじゃなくて、ちよつととびあがるだけ。
- ③ きつと、大きな魚に追われて、たまらなくなつて、水の外にげ出すんだね。
- ④ しばらくするとね、こんどはかもめがたくさん空からおりて、そのとびあがる魚をとりにきた。サアーツとおりてきて、水をかすめたと思うと、もう足かくちばして、魚をとつているんだよ。
- ⑤ かもめは、二三百いたろうね。魚はずいぶん食べられたらしい。
- ⑥ 船がどんどん走って行くので、そのうちに見えなくなつちやつた。



ア



イ



ウ

『父から子
への南洋
だより』
中島敦なかしまあつし

問1 アからウの絵は、【手紙】のどの部分をえがいたものですか。

【手紙】の①から⑥までの中からそれぞれ一つずつえらんで、その番号を書きましょう。

ア

イ

ウ

問2 【手紙】の①に書いてあるできごとがなぜ起こったかについて、父親はどう考えていますか。【手紙】の中でそれが書かれている部分を、②から⑥までの中から一つえらんで、その番号を書きましょう。

□

問3 ⑥の「そのうちに見えなくなつちやつた。」とありますが、何が見えなくなつたのですか。次のアからエの中から一つえらんで、その記号を書きましょう。

ア 遠くまでとぶとびうお

イ 水の上にはねあがる魚と、魚をとるかもめ

ウ どんどん走っていく船

エ 甲板にとびこんできた魚と、魚を追いかけるかもめ

第四学年【めあて】文章の内容を整理しよう。

7 山本さんは「わたしたちのくらしと水」というテーマで自由研究をする中で、「森林のはたらき」という文章の内容をまとめることにしました。この文章をよく読んで、あとの問いに答えましょう。

森林のはたらき

- ① むかしから日本には、「日照りに不作なし。」ということばがありました。日本人にとって水害はおそろしいものでしたが、少しくらいの日照りなら、なんとかがまんできたのです。なぜでしょうか。
- ② それこそは、森林や水田のゆたかな土のおかげでした。森林や水田の土にふくまれた水分は、きびしい日照りにもよくたえて、少しずつ水のおくりものを、とどけてくれたからです。
- ③ 森林は水をたくわえ、じよじよに、じよじよに、はきだしてくれます。くる日もくる日も同じように、水を送り続けてくれます。この、「じよじよに、いつも同じように水を送り続けてくれる。」ということこそ、森林のもつかけがえのないはたらきでした。なぜなら、晴れた日には水が使えないのは、日本人はどうのおかしに、ほろびていきますね。雨がふると、水が一度に出てくるのでは、水害になりますね。
- ④ では森林と、人工のダムとはどちらがうのでしょうか。ダムは、一度にたくさん水をたくわえるので、わたしたちは一度にたくさん使えます。しかし、からになったらおしまいです。雨がふってくれなければ、どうしようもありません。

『川は生きている』 富山和子

() (組) () (番号前) ()

問1 山本さんは、——線の理由を説明しているだん落を見つけました。どのだん落でしょう。文章の①から④までの中から、もつともふさわしいものを一つえらんで、その番号を書きましよう。

問2 山本さんは、森林と人工のダムのちがいを次の表にまとめました。□に入る言葉を、それぞれ八字と四字で文章の中からぬき出して、表を完成させましよう。

人工のダム	森林	
<p>一度に</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> </div> <p>水をたくわえる。</p>	<p>じよじよに、</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 100px; margin: 0 auto; display: flex; flex-direction: column; justify-content: space-around;"> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> <div style="width: 80%; height: 20px;"></div> </div> <p>水を送り続ける。</p>	<p>はたらき</p>

第四学年「めあて」大切な言葉に注意して、文章の内容を表に整理しよう。

() (組) () (番 名前) ()

8 高田さんは、「シオカラトンボの説明文」の内容を、表にしたり、短い言葉でまとめたりして、整理することになりました。「シオカラトンボの説明文」をよく読んで、あとの問いに答えましょう。「」、「」は字数に数えます。

【シオカラトンボの説明文】

シオカラトンボは、ただ「トンボ」とよばれることもあります。塩がついたような青みがかった白い体をしているのはオスで、メスは黄色っぽい茶色をしていて、ムギワラトンボともよばれます。春から秋にかけて、いろいろな水辺で見られます。とくに、水田、公園の池などでは多く見られます。学校のプールにもよく飛んできますので、水泳の時間に発見することができるかもしれません。ようちゅうの体には、毛がたくさん生えています。オスのシオカラトンボをつかまえ、明るい場所で目を見てみましょう。角度によっては水色に見えます。「トンボのめがねは水色めがね……」という歌がありますが、このトンボのことを歌ったのかもしれませんが。

色がこく、後ろ羽のつけ根が黒っぽいシオカラトンボにたトンボも、身近な水辺にいます。これはオオシオカラトンボです。シオカラトンボより少し大きいのですが、野外では、大きさのちがいはほとんどわかりません。

参考 『調べ学習』に役立つ 水辺の生きもの 佐々木 洋

問1 高田さんは、シオカラトンボの体のとくちようを【表】にまとめました。【表】の() ()にあてはまる言葉を【シオカラトンボの説明文】からぬき出して書きましょう。

【表】

シオカラトンボ		トンボ	体のとくちよう
メス	オス		
黄色っぽい() (色で、) ()	() がついたような青みがかった() () 体。 () () 色に見える。		

問2 高田さんは、オオシオカラトンボの体のとくちようについて、説明することにしました。オオシオカラトンボの体のとくちようを、次の〈やくそく〉に合わせて書きましょう。

- 「色」と「体の大きさ」について説明すること。
- 三十字から四十五字で書くこと。

オオシオカラトンボの体のとくちようは、

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

第四学年「めあて」「ことわざや慣用語の意味を調べて、正しく使おう。」

() () 組 () () 番 名前 ()

9 ことわざや慣用語について、あとの問いに答えましょう。

問1 次の(1)と(2)のことわざの意味を、アからエまでのの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

- (1) 「木を見て森を見ず」
- ア 物のよさが分からない人により物をあげてもむだなこと。
 - イ よい結果はあせらずにゆっくり待つべきだということ。
 - ウ 細かいことに気を取られて全体が見えなくなること。
 - エ 同時に二つのことをうまくやろうとすると失敗すること。

- (2) 「泣きつ面にはち」
- ア ものごとがうまくいかず、いらいらすること。
 - イ 悪いことの上に、さらに悪いことが重なること。
 - ウ 苦労していないのに、よいものが手に入ること。
 - エ こま切れ切って、役に立たないものにもすがること。

問2 大木さんは、「手」という言葉を用いた慣用語の意味と、その使い方を【カード】に書いています。【カード】の【A】と【B】に入るものを、アからエまでのの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

【カード】

<p>〔手に負えない〕</p> <p>◆意味…自分の力ではどうにもならない。</p> <p>◆使い方…</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">A</div>	<p>〔手を組む〕</p> <p>◆意味…</p> <p>◆使い方…友人と手を組んで、野球チームを作った。</p> <div style="border: 1px solid black; width: 100px; height: 40px; margin: 0 auto; text-align: center; line-height: 40px;">B</div>
--	--

- (1)
- ア 手に負えないくらい楽しい運動会だった。
 - イ 手に負えないくらいむずかしい問題だった。
 - ウ 手に負えないくらい親切な男の人だった。
 - エ 手に負えないくらいきれいな絵だった。

- (2)
- ア できるかぎりのことをやってみる。
 - イ 力を合わせてものごとを行う。
 - ウ それまでの関係を終わりにする。
 - エ 自分のかだけで何とかする。

第四学年【めめて】主語とじゅつ語の関係に気をつけて、正しい文をつくろう。

() (組) () (番 名前) ()

10 主語とじゅつ語について、あとの問いに答えましょう。

問1 1と2の文の主語を、アからエまでのの中からそれぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

1 ア 昨日、ぼくは川で遊んだ。

2 ア あの建物、わたしたちの学校だ。

問2 1から3までの文は、あとの【文の型】のアイウのどの型に当てはまりますか。それぞれ一つずつえらんで、その記号を書きましよう。

1 近所の公園はとても広い。

2 わたしの兄は大学生だ。

3 ぼくは、おもしろい本を読んだ。

【文の型】

ア 「何は(が)」 「何だ」
 イ 「何は(が)」 「どうした」
 ウ 「何は(が)」 「どんなだ」

問3 次の の文は、主語とじゅつ語の関係がねじれていて、正しい文になっていません。

ぼくのしょうらいのゆめは、学校の先生になりたい。

この文を正しい文に書き直します。【ゆめはを主語にした場合】と、【なりたいをじゅつ語にした場合】について、それぞれ書きましよう。

【ゆめはを主語にした場合】

「ぼくのしょうらいのゆめは、」に続けて書きましよう。
 ぼくのしょうらいのゆめは、

【なりたいをじゅつ語にした場合】

「学校の先生になりたい。」に続くように書きましよう。

学校の先生になりたい。

第四学年「めあて」つなぎ言葉を使って、長い文を短い文に分けよう。

() (組) () (番 名前) ()

Ⅱ 次の問1から問4の文を、二つの内容に分けて書き直しましょう。つなぎ言葉には、() () ()の中の言葉を使います。一つめの文の終わりの七文字と、二つめの文の、つなぎ言葉に続く七文字を書きましよう。(「」は字数に数えます。)

問1 一日中雨がふってグラウンドが水びたしになったから、明日のサッカーの試合はきつと中止になるだろう。(だから)

一日中

。

だから、

くなるだろう。

問2 島に住んでいるおばあちゃんが、遊びに来ないかと言ってくれたので、夏休みに、わたしは船で島にわたった。(それで)

島に

。

それで、

くわたった。

問3 わたしはドアを開けようとしたが、かぎがかかっていて開けなかつた。(しかし)

わたしは

。

しかし、

く開けなかつた。

問4 山道はけわしく、何度もあきらめようかと思つたが、みんなではげまし合つて、全員で山のてっぺんに立つことができた。(でも)

山道は

。

でも、

くできた。

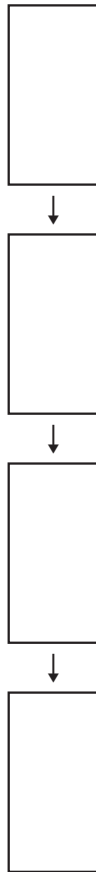
第四学年【めあて】**国語辞典の使い方をたしかめよう。**

() (組) () (番 名前) ()

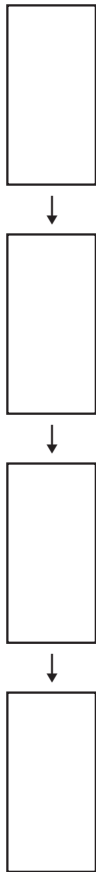
⑫ 次の問1から問3に答えましょう。

問1 次の(1)と(2)のそれぞれの言葉を、国語辞典にのっている順にならばかえ、記号で答えましょう。

(1) ア えんとつ イ えりまき ウ えんぴつ エ えんどう



(2) ア タイヤ イ たい焼き ウ ダイヤ エ だいたい



問2 次の(1)と(2)の文の——線の言葉を、国語辞典にのっている形に書きかえましょう。

(1) りんごを切つて、皮をむきなさい。

(2) となり町に引っこしたので、学校までの道のりが遠くなった。

問3 次の【文章の一部】の——線の言葉の意味を、国語辞典を使って調べます。——線の「あける」の意味は、あとの【国語辞典の一部】のAからUまでのどれに当たりますか。一つえらんで、その記号を書きましょう。

【文章の一部】

となりの山田さんが、急に引っこしをすることになった。今度の日曜までに家をあけるのだそうだ。あと三日しかないので、家族みんなていそがしく荷物をまとめている。

【国語辞典の一部】

A あける【明ける】(動) あるひとつづきの時間が終わって、次の時間が始まる。例夜が明ける。

I あける【空ける】(動) 入っていたものをなくしたり、外に出したりして、からっぽにする。例コップの水をバケツに空ける。

U あける【開ける】(動) としていたものを開く。例まどを開ける。

小問①～②の正答

【話すこと・聞くこと】

① 正答 P 13
A イ
B ウ
C エ

【話すこと・聞くこと】

② 正答 P 14

問1 虫かこの絵を見せる場面 ②
こん虫ゼリーを見せる場面 ⑤

問2 ウ

問3 エ

小問③～④の正答

【書くこと】

③ 正答 P 15

問1 ぼくの横を

問2 A
イ B
ウ

【書くこと】

④ 正答 P 16

問1 A オ B ウ C ア

問2 夏になると

小問5～6の正答

【読むこと】

5 正答 P 17

問1

- A 科学者
- B アンテナ

問2
ア

【読むこと】

6 正答 P 18

問1
ア ③
イ ⑥
ウ ④

問2
③

問3
イ

小問7～9の正答

【読むこと】

7 正答 P 19

問1 ②

問2

<p>人工のダム</p> <p>一度に</p> <table border="1" data-bbox="336 333 416 638"> <tr><td>た</td></tr> <tr><td>く</td></tr> <tr><td>さ</td></tr> <tr><td>ん</td></tr> </table> <p>水をたくわえる。</p>	た	く	さ	ん	<p>森林</p> <p>じよじよに、</p> <p>水を送り続ける。</p> <table border="1" data-bbox="614 414 694 1019"> <tr><td>い</td></tr> <tr><td>つ</td></tr> <tr><td>も</td></tr> <tr><td>同</td></tr> <tr><td>じ</td></tr> <tr><td>よ</td></tr> <tr><td>う</td></tr> <tr><td>に</td></tr> </table>	い	つ	も	同	じ	よ	う	に	<p>はたらき</p>
た														
く														
さ														
ん														
い														
つ														
も														
同														
じ														
よ														
う														
に														

【読むこと】

8 正答 P 20

問1

オス
(塩) がついたような青みがあった(白) 体。

明るい場所(目)を見ると、角度によっては(水) 色に見える。

メス

黄色っぽい(茶) 色で、(ムギワラトンボ) ともよばれる。

問2

(例) 色がこく、後ろ羽のつけ根が黒っぽい。体の大きさは、シオカラトンボより少し大きい。(四十字)

【我が国の言語文化に関する事項】

9 正答 P 21

問1 (1) ウ (2) イ

問2 (1) イ (2) イ

小問10～12の正答

【言葉の特徴や使い方に関する事項】

⑩ 正答 P 22

問1 1 イ 2 イ

問2 1 ウ 2 ア 3 イ

問3 【ゆめは を主語にした場合】

学校の先生になることだ。

【なりたい をじゅつ語にした場合】

ぼくは、しょうらい、(しょうらい、ぼくは、)

【情報の扱い方に関する事項】

⑫ 正答 P 24

問1

(1) イ ↓ エ ↓ ア ↓ ウ
(2) エ ↓ ア ↓ ウ ↓ イ

問2

(1) むく
(2) 遠い

問3
イ

⑪ 正答 P 23

問1 びたしになった / 明日のサッカー

問2 と言ってくれた / 夏休みに、わた

問3 開けようとした / かぎがかかって

問4 ようかと思った / みんなではげま



福岡県教育委員会